

「感じのよさ」と補助動詞

——日本語母語話者と非母語話者の調査結果を比較して——

A Study of the Usage of Japanese Auxiliary Verbs in terms of “Friendliness”

山 本 裕 子*

1. はじめに

習ったとおりに文型を使っているにもかかわらず、相手に不愉快な思いをさせてしまうことがある。これまで、日本語学習者の誤用に注目することによって、こうしたコミュニケーション上の問題を避ける試みがされてきた。しかし、実際、非母語話者とやりとりをしていると、誤用ではないが、日本語母語話者であればこのように表現するだろうと思われるところで、その表現が使われない、いわゆる非用も多々ある。次の例を見られたい。

(1) ①そろそろ時間なんですけど。

②そのコップ、私のかも。

③映画とかみない？

④ちょっとどいてもらえる？

⑤ A：1000 円ある？

B：ないみたい。

⑥ 京都に行ってきました。これ、おみやげです。

(2) ①'そろそろ時間なんです。

②'そのコップ、私のです。

③'映画みない？

④'ちょっとどいてください。

*人文学部准教授—日本語学・日本語教育

⑤'A: 1000 円ある？

B: ない。

⑥'京都に行きました。これ、おみやげです。

(1)(2) のどちらかが日本語母語話者で、どちらかが非母語話者とする。どちらがどちらであるかすぐわかるだろう。(2) は決して間違っているわけではないが、どこか異なっている。(1) も (2) も間違っているわけではないが、受ける印象は異なっている。(1) に比べて (2) の方がぶっきらぼうな感じがするのではないか。

(1) と (2) の相違には性質の異なるものが含まれている。①は言いさしの文であり、②③⑤にはいわゆる曖昧表現が用いられている。日本語母語話者はこのように文末まではっきり言わなかったり、曖昧な表現を好む傾向があるということはしばしば指摘されることである。では、④や⑥はなんだろう。④⑥は言いさしや、曖昧表現ではなく、また丁寧さにも関わらない。④⑥には補助動詞¹⁾が用いられている。補助動詞を含んだ表現を母語話者は頻繁に使うが、日本語学習者には用いるのが難しい。

一般に語学学習の目標として、「自然に」話したいということが挙げられることはよくあるだろう。しかし日本語母語話者、非母語話者のどちらにとっても「感じよく」話すことは、プロフィシエンシーを考える上でも重要である。本稿では④や⑥のような補助動詞の使用に注目し、補助動詞を用いた表現とそうでない表現ではどのような印象の違いがあるかについておこなった調査から、「おく」と「しまう」を含む表現を取り上げ、母語話者と非母語話者が抱いている印象の違いが何に起因するのかについて考察する。

2. 研究の背景

2.1 非母語話者の置かれている環境

非母語話者が日本において、居住者としてどんな環境に生きているかという観点からデータを見てみる。

まず、外国人労働者の就労状況について確認する。厚生労働省の「外国人雇用状況の届出状況」(2014 年 10 月現在)によると、外国人労働者数、外国人労働者を雇用する事業所数ともに 2007 年に届出が義務化されて以来、最高となっている。このように日本で就労する外国人労働者の姿はもはや珍しいものではない。外国人労働者の就労先を産業別に見ると、「製造業」が 26.4%を占め、次いで「卸売業、小売業」が 16.6%、「宿泊業、飲食サービス業」が 14.0%、「サービス業」が 7.8%となっている。製造業の事業所の占める割合は前年と比べ減少している一方、宿泊業・飲食サービス業や卸売業、小売業は増加している。また、外国

人労働者が従事している業種も「製造業」が34.7%を占め、次いで「サービス業」が13.0%、「卸売業、小売業」が11.6%、「宿泊業、飲食サービス業」が11.6%、「教育、学習支援業」が6.7%である。製造業はもっとも多いが年々減少しており、また業種の幅は広がっている。

日本在住の留学生の就職状況についても法務省の資料（2014年公表）によると、非製造業が9,013人（77.4%）、製造業が2,634人（22.6%）であり、非製造業は前年比748人増（9.1%）、製造業は前年比70人減（-2.7%）となっている。

これらのデータから、非母語話者であっても日本語を使わないで生活することは想像しがたく、日本人とともに日本語で仕事をしていく非母語話者の姿が浮かんでくる。日本で生活していく非母語話者に必要な日本語は「自然な日本語」であればいいわけではなく、人と接する時に問題のないもの、すなわち「感じのよい日本語」が必要であると言える。実際、留学生向けに日本学生機構が提供している『就活ガイドブック』²⁾にも、日本人学生向けのものとほぼ同じように「好感の持てる就活スタイル」「好印象を残すためのマナー」といった情報が掲載されており、「感じのよさ」は重要なポイントとなっている。

2.2 補助動詞と聞き手の印象「感じのよさ」

「感じのよい日本語」、「感じのよい表現」とはどのようなものかということを考えていくにあたって、はじめに述べたように本稿では補助動詞を用いた表現に注目する。本節では、補助動詞に関する多くの先行研究のうち、本稿の問題意識に沿ったものを取り上げる。

補助動詞に関しては、これまで各形式の文法的な意味や用法を中心に多くの研究がなされてきた。その中で水谷信子氏は水谷（1985）をはじめとする一連の研究で補助動詞を日本語母語話者の表現傾向と関連付けて捉えている。水谷（1985）は日本語母語話者にはある事実について自分の立場から表現する「立場志向性」があるとし、同じ事実についてそのまま事実として表現する「事実志向」と対比的に捉えている。そして、水谷（2010）では日本語母語話者（NS）は非母語話者（NNS）に比べ、補助動詞表現の使用頻度が高いことを指摘している。水谷（2010）によると、

NS： 補助動詞使用数 1,085 / 発話語数 180,000＝約 0.6%

NNS：補助動詞使用数 259 / 発話語数 70,000＝約 0.37%

と、日本語母語話者の補助動詞の発話語数に対する補助動詞の使用数は非母語話者の1.6倍ほどである。また視点は様々であるが、補助動詞の使用の仕方が日本語母語話者と非母語話者で異なることには多くの指摘がある（池上・守屋編2009、近藤他2010他）。さらに山本（2012）は補助動詞の使用は社説よりも「雑談」で多いことや、補助動詞表現が用いられやすい場面があることを指摘している。これらの先行研究から、補助動詞は特に「話しことば」で頻繁

に用いられるものであり、「自然さ」を生むものの一つと言えるだろう。

しかし、こうした「自然な表現」という側面ではなく、「待遇性」という観点から補助動詞が注目されることはほとんどないと言っていい。待遇性という観点から注目されるのは、補助動詞の中では授受補助動詞にほぼ限られる。授受補助動詞は行為に伴う「恩恵」の授受を表すものであるため、不適切な使用がそのままコミュニケーション上の問題につながりかねない。また形式としても複数のバリエーションを視点によって使い分け、さらに敬語のバリエーションもあるため、運用が難しいことも注目される理由であるだろう。こうした中で山本(2003)は「おく」を用いることによって、「あげる」の恩着せがましさを回避することができることを指摘している。これは待遇的な観点からの指摘である。しかし山本(2003)は「あげる」に注目した言及であり、「おく」そのものの待遇性を検討したわけではない。

2.3 研究の課題

このような状況を背景に、筆者らは補助動詞がどのような捉え方をされているか調査をおこなった。調査では8種類の補助動詞（みる・おく・しまう・いく・くる・もらう・くれる・あげる）を対象としたが、本稿ではそのうち「おく」「しまう」について取り上げ、補助動詞が印象のよさにどのように関わっているのかを実証的に検討する。「おく」「しまう」を取り上げるのは、どちらもこれまで待遇という観点からは検討されていないが、山本(2003)で指摘されているように、「おく」は恩恵の授受と関わる用法がありそうだとしたことと、「しまう」は表1に示すように話しことばの中での使用頻度が非常に高い形式であることによる。

表1 会話データ³⁾に見られる補助動詞数（山本 2012 による）

	いく	くる	もらう	あげる	くれる	おく	みる	しまう	ある
使用数	489	2455	583	195	1060	534	522	2982	567
%	5.2	26.2	6.2	2.1	11.3	5.7	5.6	31.8	6.1

本稿での検討課題は以下の3点である。

1. 補助動詞「おく」「しまう」のあるなしを日本語母語話者はどのように捉えているか。
2. 補助動詞「おく」「しまう」のあるなしを非母語話者はどのように捉えているか。
3. それぞれの捉え方の背景にあるものは何か。どうしてそのように捉えているか。

3. 研究方法

日本語母語話者 96 人と非母語話者 60 人を調査対象者とし、2013 年 5 月から 7 月にかけて

て選択式のアンケート調査と記述式調査をおこなった。

日本語母語話者は本学の日本人大学生と、社会人（60代まで）。社会人は本学に聴講にきている方を中心に調査協力をお願いした。男女、年齢の内訳は表2の通りである。

非母語話者は国内外の大学で日本語を専門として学んでいる留学生と、日本に研修にきた日本語教師（50代まで）であり、いずれも日本語のレベルは上級である。またNNSの国籍は27カ国にわたる。

表2 回答者の性別・属性

	NS (N = 96)		NNS (N = 60)	
	男性	女性	男性	女性
学生	30	32	3	19
社会人	8	26	13	25
計	38	58	16	44

質問紙調査のうち、選択式アンケート調査はマンガを用いておこなった。4コママンガで場面を提示し、選択肢をセリフの中に示した。そして選択肢から「印象がよい」と感じるものを一つ選択してもらった。4コママンガで場面を提示したのは、急いでいる感じや楽しそうな感じといった場面の雰囲気や人間関係を無理なく伝えることが容易だと判断したからである。アンケートの例を図1に示す。



表3 4つの場面の設定

	場面	発話の状況	選択肢
1	オフィスで、同僚同士	書類の処理について確認する場面	ああ、あれね。係の人に (a. 頼み/b. 頼んでおき) ましたよ。
2	オフィスで残業中、親しい同僚同士	翌日の資料の準備をしている最中、一人が帰りたいそぶりをしている場面	先帰っていいよ。あと、私が (a. やる/b. やっとく) から。
3	コンパでの会話 友人同士	一人が先に帰ることを告げた場面	えー、もう (a. 帰る/b. 帰っちゃう) の？
4	オフィスで残業中、先輩後輩	まだ仕事がたくさんあることに嘆息した先輩に	よし！ 急いで (a. 片付け/b. 片付けちゃい) ましょう！

図1 アンケート（一部）場面1

また選択肢の作成にあたっては、事前調査をおこなった。事前調査では、本調査と同様に場面を4コママンガで、選択肢にしたい部分を空欄にして示した。そしてその場面にふさわしい表現を記述してもらった。そこで得られた回答の多いものから、2つあるいは3つ選び、選択肢を作成した。この事前調査は大学生と社会人の日本語母語話者に協力を依頼し、63人から回答を得た。このようにして選択式アンケート調査を作成した。

そして、2つ目の調査として、選択式調査で選択した回答について、「どのような印象がするか」を記述してもらった。こちらは任意での回答としたが、記述コメントは、日本語母語話者33人、非母語話者31人から得られた。調査では、全部で11の場面を提示したが、本稿ではそのうち表3に示した4つの場面について取り上げる。

4. 結果

4.1 アンケート結果①：母語話者の回答

はじめに、選択式の質問紙調査で得られた母語話者の回答を表4に示す。これによって検討課題1「日本語母語話者は補助動詞の有無をどのように捉えているか」を見ることとする。表4に示したように4つの場面全てで日本語母語話者は補助動詞表現を極めて高い割合で「感じがいい」表現として選択している。

表4 NSの回答（%）（N=96）

場面	動詞のみ	補助動詞	無回答
1	4（4.2%）	92（95.8%）	0（0.0%）
2	9（9.4%）	87（90.6%）	0（0.0%）
3	8（8.3%）	88（91.7%）	0（0.0%）
4	12（12.5%）	84（87.5%）	0（0.0%）

調査結果からは補助動詞と「感じのよさ」に結びつきがあるように見える。しかし、「感じのよさ」は母語話者であっても日頃、意識しているものではなく、セリフを選択する際、「感じのよさ」ではなく、「自然なもの」が選ばれている可能性もある。そこで、調査での選択がどのような意識に基づくものであるかを記述式調査のコメントで確認する。

記述式調査には次のようなコメントが見られた。

まず、個々の場面について述べたものではなく、調査全体についてのコメントと見られるものを（3）に示す。

(3) 調査全体についてのコメント

- ・選んだ選択肢⁴⁾の方が優しくったり親しい言葉の印象だった
- ・V + ○○は少しおちゃめな感じを受けて、心を開いてくれているように感じる。そうすると、相手もそれを感じて対応しやすい。逆に動詞だけは形式ばったてきばきした印象を受ける。
- ・「- する」など言い切りの形だと冷たい印象を受けてしまう
- ・基本の言葉（「頼み」「やる」とかだけ）で言われると、なんか上から目線というか失礼に聞こえる。でもちょっと言葉をつけたして変えてみるだけで、敬語とまでは言わないけどへりくだった言い方に聞こえる。
- ・文が長いほうが感じがよさそうに思われる。その分、その人の感情などの情報が入っているからだと思う。「やる」「帰る」「する」などだけだと少し投げやりな感じがする。

このように調査全体について述べたコメントには、補助動詞表現を肯定的に評価するコメントのみが見られた。これらの記述からは、補助動詞表現を話し手の気持ちのこもった「感じがよい」ものと捉えていることがうかがえる。この「感じのよさ」とは「優しい」「親しい」「心を開いてくれているような」「冷たくない」ものである。

また各場面で選択肢となっている表現、「おく」「しまう」を選択した回答者の記述コメントは以下のようなものであった。

(4) 補助動詞（「おく」「しまう」）を選択した回答の記述コメント⁵⁾

場面 1（頼みました / 頼んでおきました）

- ・「おく」の方が完了していることだというイメージがわかりやすい。
- ・軽い感じがいい。

場面 2（やる / やっとく）

- ・「やる」だと「やっとく」と比べて不本意な感じ。
- ・「やる」は怒っている感じがするが、「やっとく」はいやいややる感じがしなくてよいと思う。
- ・「とく」は上司（目上の人）相手だと感じが悪いが、同僚相手だとよく感じる気がする。

場面 3（帰るの / 帰っちゃうの）

- ・「帰っちゃう」は、帰ってしまうのが嫌だと思っているニュアンスが出る。
- ・「帰る」の方は気持ちが読み取りづらい。
- ・「もう帰るの？」よりも「もう帰っちゃうの？」の方が帰らないでほしいという気持ちがより多く含まれているように思う。「帰るの？」でもいいが、帰らないでほしいという気持は少なく、「なに一人だけ先に帰るの」という意味でとられてしまう場面もあると考えられる。

場面4（やりましょう / やっちゃいましょう）

- ・「やっちゃいましょう」の方がやる気が出る。
- ・「やっちゃう」はモチベーションが上がりそう。

(4) からは、「おく」や「しまう」の使用が相手に対してよりよい感じを与えるものと捉えられていることがわかる。「やる気がある」といった前向きな印象や、『『帰らないで』』思っていることが伝えられる」というように、相手がどう受け取るかという観点から記述されている。

またこの印象には補助動詞が用いられているということだけでなく、選択肢として提示されている形式に縮約形「とく」「ちやう」が用いられていることが大きく関わっているようである。場面2の『『やとく』』はいやいややる感じがしない」や、場面4の『『やっちゃう』』はモチベーションが上がりそう」と言ったコメントからは、「とく」や「ちやう」を用いることに積極的な価値を見出していることが感じられる。気持ちのこもった親しい感じを創出するのに、補助動詞、特に縮約形の使用が貢献しているようである。このように、母語話者の回答からは、補助動詞を用いた表現を補助動詞のない、動詞のみの場合と比べて「感じのよいもの」として積極的に評価していることが示された。

4.2 アンケート結果②：非母語話者の回答

次に非母語話者の回答結果から、検討課題2「非母語話者は補助動詞の有無をどのように捉えているか」を見る。表5に結果を示す。

表5 NNSの回答（N＝60）

場面	動詞のみ	補助動詞	無回答
1	24 (40.0%)	35 (58.3%)	1 (1.7%)
2	32 (53.3%)	27 (45.0%)	1 (1.7%)
3	27 (45.0%)	32 (53.3%)	1 (1.7%)
4	31 (51.7%)	26 (43.3%)	3 (5.0%)

非母語話者の回答はどちらかに偏ることがなく、動詞と補助動詞の両方が選ばれている。どちらかをより「印象がよい」ものと捉えているわけではない。では、どのように捉えられているのか、記述コメントを見てみよう。

まず、補助動詞を選択した回答者の記述コメントを示す。

(5) 補助動詞を選択した回答の記述コメント⁶⁾

場面 1 (頼みました / 頼んでおきました)

- ・ 前, 考えましたから。
- ・ 前に他の人に頼んだから。
- ・ 「おく」の表現は「準備」のことです。
- ・ 丁寧に話しているから。

場面 2 (やる / やっとく)

- ・ 友だち同士だから, (やっとくの方が) 親切的な感じ。
- ・ 将来のことを話すから。
- ・ 同じ会社の友達同士だから。

場面 3 (帰るの / 帰っちゃうの)

- ・ 「ちゃう」は残念な気持ちを表す。(6 人)
- ・ 「ちゃう」は人の感情も加わっていてふさわしい。

場面 4 (やりましょう / やっちゃいましょう)

- ・ ユーモラスな感じがする。
- ・ 「しまう」は全部し終わると言う意味があるから。(4 人)

「気持ち」に関わるコメントとしては場面 3 の「帰っちゃうの?」が「話し手の残念な気持ちを表す」という記述が 6 人に見られ、突出している。また、場面 2 の「やっとく」に「親切的な感じ」があった。しかし、そのほかは「将来のことだから」や「全部し終わる、の意味だから」のような文法的に関わる記述と「友だち同士だから」のような人間関係に関わるコメントであった。

次に補助動詞を用いない、動詞のみを選択した回答者の記述コメントを示す。

(6) 動詞のみを選択した回答の記述コメント

場面 2 (やる / やっとく)

- ・ 未来に発生することだから。
- ・ 事前(準備)の意味もあるのだろうが、会話に事前の意味を感じない。

場面 3 (帰るの / 帰っちゃうの)

- ・ 帰ることは未来のことだから。
- ・ 「ちゃう」は女性が使うことが多いと思う(2 人)
- ・ 「帰るの」の方が丁寧。

場面 4 (やりましょう / やっちゃいましょう)

- ・ こちらのほうが丁寧。「ちゃう」は友達だったらいいけど、会社だから。
- ・ 正確な感じ。

- ・「ちゃう」は好きじゃない。
- ・急いで片づけたいですから。「しまう」を入れると「全部片付ける」という意味になります。でも急ぐなら全部片付けられないと思います。
- ・「ちゃう」は急ぎすぎる感じがする。

このように、動詞のみを選択した場合も、「未来のことだから」「全部終わる」といった文法的意味に関する記述が目立つ。そして、「友達だからいいけど会社だから不適切」や「『ちゃう』は女性が使うものだ（から、男性には不適切）」といった縮約形の運用に関する記述も多いが、その中には明らかに正しくないものも含まれている。特に「ちゃう」については「好きじゃない」「急ぎすぎる感じがする」「丁寧じゃない」と書かれ、「ちゃう」の印象がよいものではないことが示されている。

このように、非母語話者は表現の選択に際して文法的意味、丁寧さ、男女差等社会的属性などの語用論的知識を重要と考えているが、適当な判断をするには不十分である。選択にあたって、確信を持って選択できているわけではないと思われる。これは、調査全体について答えた、次の記述コメントに端的に示されている。

(7) 意味は多分同じと思うけど、儀礼の面で見たら区別があるかもしれない。習慣的な用法はやはりはっきり知らない（中国 学生）

非母語話者は母語話者のように、補助動詞表現を「印象がよい」と感じているわけではなく、文法や語用論的知識で選択しているものの、不十分な知識であると言える。

ではこれらの捉え方は何に起因するのか。次に検討課題3「捉え方の背景にあるものは何か。どうしてそのように捉えているか」について検討する。

5. 考察

5.1 日本語母語話者の補助動詞の印象

ここまでの母語話者の使用傾向および記述回答から、補助動詞は「感じのよさ」に貢献しているものの一つであると言える。この印象が何に起因するのかを考察するにあたり、まず、縮約形を手掛かりに検討する。

本稿の調査においては場面2, 3, 4で縮約形を選択肢として提示したが、これは事前調査で得られた回答が縮約形だったからである⁷⁾。つまり、母語話者はこの場面にふさわしいものを、

「私がやっておくから」(場面2)

「えー、もう帰ってしまうの？」(場面3)

ではなく、

「私がやとくから」(場面2)

「えー、もう帰っちゃうの？」(場面3)

だと認識しているのであり、「とく」「ちやう」は、「おく」「しまう」では表せないニュアンスを持っていると考えられる。「ちやう」と「しまう」については、これまでも近藤・姫野(2012)等でも異なる用法があることが指摘されている。

(8) a. 食べてしまおう

b. 食べちゃおう

(9) a. 食べてしまった

b. 食べちゃった

(8a)は「残さないで全てを食べる」、(9a)は「最後まできれいに食べた」という「完了」を表すが、(8b)は(8a)と同様の場合の他、「友人を待たないで先に食べはじめる」場合にも使え、(9b)も(9a)と同様の場合の他、「つまみ食いをしようとしているのを見ていて『あ、食べた(口にした)』という場合にも使えるとして、近藤・姫野(2012)では「ちやう」は開始限界を強調するものとされている(同:63)。確かに本稿の調査場面でも、場面3は「帰る」ことが生じること(帰り始めること)、に注目していると言える。そのため、事前調査でも「ちやう」が多かったかもしれない、しかし、回答者自身はこの形式に限らず、通常このような意味の違いを自覚しているわけではないだろう。

記述回答のコメントには、「(「帰っちゃう」の方が) 相手は喜ぶ」「(「帰っちゃう」の方が) 相手が帰りやすい」、「(「やとく」の方が) 任せていいよ、という安心感を与える」とあった。これらからは、相手がどのように受け取るか、相手の立場に寄り添うことへの志向性が感じられる。

アンケートの場面を再度見てみよう。4つの場面ではいずれも行動の主体は相手であって話し手ではない。場面1、場面2はどちらも「相手にとって必要な行為、役に立つ行為」を話し手がすることを述べるのに「おく」「とく」が用いられている。山本(2003)にあるように「頼んであげましたよ」「やってあげるから」と「あげる」を用いて表現することも可能な場面である。場面3も「帰る」のは相手である。場面4は、話し手も相手と一緒に仕事をするが、話し手は相手を励ますように「急いで片付け(ちやい)ましよう!」と言っている。ここからも相手の立場に寄り添って発言していると言える。

水谷(1985)では日本語は「立場志向」で表現するとし、多くの表現とともに補助動詞の「いく」「くる」や授受補助動詞が「立場志向」の表現をするものとして取り上げられている。「立

場志向」は、事態に話し手がどのような関わり方をしているかを含めて表現することをいう。しかし本調査の回答には、相手が事態にどのように関わっているかという相手の立場を含めて表現する志向性がある。これは「共存志向⁸⁾」と捉えることができるのではないだろうか。

日本語母語話者の会話スタイルの特徴の一つに「共話」がある。「共話」も水谷(1993)の造語であるが、「ひとつの発話を必ずしもひとりの話し手が完結させるのではなく、話し手と聞き手の二人で作っていくという考え方にもとづいた（水谷 1993：6）」話し方とされる。実際に相手の発話を引き取って完結させる会話形式だけでなく、あいづちやそれを促すポーズ、言いさしなどの非完結型の文形式、話し手の心理状態を表明するフィラーや感動詞などが多用されること、同意を表す「ね」のように聞き手の知識状態についての話し手の把握の仕方が示される終助詞が存在することなども共話的な話し方を補強する日本語の特徴としてあげられている。本稿で提案する「共存志向」は共話とも一致する志向性ではないか。そして補助動詞は共存志向に基づいて多用される形式の一つなのではないだろうか。

なお、縮約形について、非母語話者には会社のような「改まった場面」では「とく」「ちやう」は使えない、「ちやう」は女性が使うというコメントがあった。これらのコメントからは、縮約形は「くだけた表現である」という以上の積極的な意味は認識されていないことがわかる。さらに女性が用いるという誤った認識も見られた。日本語教育では、対人関係で問題にならないようにという配慮から、丁寧体な表現から導入するのが一般的で、「丁寧であること」を重視する傾向があり、縮約形は積極的には扱わない。しかし本稿で示したように、縮約形には距離を縮めるだけでなく、気持ちを表す積極的な役割がある。縮約形の扱いは「感じのよさ」の観点から再検討される必要があるだろう。

5.2 非母語話者の補助動詞表現の印象

次に、非母語話者の補助動詞表現に対する印象がどのように生じているのかを考察するため、日本語教科書で「おく」「しまう」がどのように扱われているか確認する。「おく」も「しまう」も初級あるいは初中級で学習される文法項目である。代表的な総合教科書である『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』と『できる日本語』では、次のように説明されている。このように初中級では文法的意味の説明が中心となっており、縮約形については、単に「口語的表現」で、くだけた場面で用いることができる、というだけで縮約形を積極的に用いるようなことはない。相手に配慮して、というよりも言いたいことを言えるようにすることが主眼である。

そして、中上級レベルになると、これらは既習のものとして特に説明はなく次の例のようにモデル会話の中に含まれている。

表6 「おく」「しまう」の教科書での扱い

項目	説明 (例文)	みんなの日本語	できる日本語
おく	Completion of a necessary action by a given time (私がツアーを予約しておきますね)	L30	初中級 L9
	Completion of a necessary action in readiness for the next time (次の会議までに、この資料を読んでおいてください)		
	Keeping the resultant state as it is (そのままにしておいてください)		
	縮約形は「とく」である		
しまう	Emphasizes that an action or event has been completed. (ワインを全部飲んでしまいました)	L29	初中級 L9
	Will complete an action in the future (この手紙を書いてしまいますから、お先にどうぞ)		
	Speaker's embarrassment or regret in a difficult situation (さっき行った喫茶店に財布を忘れてしまったんです)		
	縮約形は「ちゃう」である	中級 L4	なし

(10) 風邪で会社を休んだ時〈社内〉

アラン：主任，忙しい時に3日も休んでしまって申し訳ありませんでした。

主任：あ，アラン君，もういいの？

アラン：ええ，おかげさまですっかりよくなりました。

主任：今年のインフルエンザはひどいそうだね。

アラン：ええ，おなかにきちゃって，ひどい目にあいました。

主任：そう，大変だったね。今日からまた頑張っ

アラン：はい，今日からまたバリバリやります。仕事が山のようにたまっちゃいましたから。

『にほんごで働く！ ビジネス日本語 30 時間』より

(11) バイト仲間から風邪でバイトを休むことを店長に伝えるように頼まれたが，伝え忘れてしまったことについて話している会話

〈前略〉

ヘリヨン：私がインフルエンザで休むってこと，店長に伝えてくれるはずだったよね？

こうじ：あつ，やべ。忘れてた。

ヘリヨン：ええー！ 無断欠勤だと思われちゃったじゃない！

こうじ：ごめん，ごめん。

ヘリヨン：今から本当のことを言っても，信じてもらえないかも……

こうじ：大丈夫だよ。次のシフトのとき，僕からちゃんと説明しとくから。

ヘリョン：本当に？
こうじ：うん。……

『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』より

(10)(11)のように、中上級の教材では縮約形の「ちゃう」「とく」も含んだ会話が提示されている。会話例は非常にこなれたものであるが、各形式について特に新しい説明はない。説明としては初級でなされたものが全てである。

非母語話者の記述コメントからは、「文法的意味」と「丁寧さ」「社会的属性」への注目が感じられた。これらはつまり、現在の日本語教育で重視されている観点に他ならない。つまり、学習者は学習したように日本語を見ているのである。学習した結果が忠実に反映した記述コメントと言えるだろう。

なお、調査結果を示した4.2節では紹介しなかったが、日本滞在経験の長い非母語話者1人の回答に次のようなものが見られた。この回答者は全て補助動詞表現を選択し、それについて次のようにコメントしている。

(12) 日本滞在経験の長い非母語話者のコメント

場面1「頼んでおきましたよ」から、言われる前に相手のことを考えていたことが伝わる。

相手を安心させてくれるような言葉。

場面2:「やっとかから」には「任せて、きちんとするから」という意味が含まれていて頼ってもいいという感じがする。

場面3:「もう帰っちゃうの」から、残念だという気持ちが伝わる。

場面4:「急いでやっちゃいましょう」全部やってしまおう⁹⁾という言葉は、「そんなに多くない、すぐに全部片付けることができる」という希望を持たせる、励ましてくれる言葉だと思う。

(12)は母語話者の回答と共通する内容であり、また全て「相手にどのように伝わるか」という観点からの記述である。こうした回答が見られることから、日本語環境に長く滞在し、日本語での生活に慣れれば母語話者のような観点を自然に身につけることができる可能性を示している。しかしながら、社会人として長く日本に滞在している回答者が全て(12)のような回答をしたわけではない。(12)のようなコメントはこの回答者1人のみで、日本に10年以上滞在し日本で働いている回答者であっても「『ちゃう』は女性が使う」というような誤ったコメントをしていた。このように、自然習得のみに期待するのは現実的ではない。先ほど述べたように、非母語話者の表現観には、学習の影響が非常に大きい。したがって教える側がもっと「相手にどのように伝えるか」の観点を取り入れ、「感じのよい」表現を意識的に導入する必要があるのではないだろうか。

6. おわりに

本稿では、質問紙調査の結果から日本語母語話者は補助動詞に「感じがよい」という印象を持っていることを示した。また非母語話者は「感じがよい」という観点を持っておらず、「丁寧さ」や「文法的な意味」に注目しがちであることを示した。

本稿で取り上げた、「おく」「しまう」を含む補助動詞は初級で学ぶ文法項目の一つである。母語話者の使用頻度は高く、また肝心なところで使うと「感じがいい」ものでもある。近年、コーパスによる分析で、どのような表現がよく使われるかという「自然」な観点が充実してきているが、それにプラスして、「感じのよさ」の側面にも注目すべきだろう。それによって、言いたいことをどのように表現するかだけでなく、その表現がどんな印象になるかの観点も加わる。

最後に、今後の課題について述べる。本稿では「おく」「しまう」についてのみ取り上げたが、その他の補助動詞についても検討しなければならない。日本語母語話者については男女の違いや年齢の違いによって「感じがよい」と思うものも変わってくる可能性がある。非母語話者については、母語や学習環境、生活環境によって日本語をどのように捉えるかが異なっている可能性がある。これらについて詳しい分析が必要であろう。

また、本稿では補助動詞の使用を支えるものとして「共存志向」があるのではないかと指摘した。今後、共存志向について、縮約形、終助詞との共起といった言語的な特徴と、場面条件等語用論的な特徴を明確にし、共存志向が日本語の表現志向と言えるかどうか、検討を深めるつもりである。

本稿は山本・西川・水谷・押尾(2013)に基づき、大幅に加筆・修正したものである。本稿の執筆にあたっては、明海大学名誉教授の水谷信子先生に励ましとご助言をいただいた。記して感謝申し上げる。

注

- 1) 補助動詞は単独で用いることができる動詞が他の動詞の「て形」に後接した形態で、意味の中核は前項動詞句 (VP1) にあり、後項の動詞 (V2) が実質的ではなく付加的なものとなっているものの、後項の動詞とする。該当する代表的なものとして以下の 11 語が挙げられる。「いる」「ある」「おく」「しまう」「くる」「いく」「もらう (いただく)」「くれる (くださる)」「やる (あげる, さしあげる)」「みる」「みせる」。
- 2) <http://www.jasso.go.jp/job/guide.html#guide> を参照されたい。
- 3) 「BTS による他言語話し言葉コーパス—日本語会話 1 (日本語母語話者同士の会話)」(2003 年度版)

- と「名大会話コーパス」からデータを採取している。
- 4) この回答者は本稿で検討の対象としていない場面6(美容院での接客場面。補助動詞としては「ていく」と「てあげる」が用いられている)では補助動詞でないもの(丁寧形)を選択しているが、それ以外の場面では補助動詞を選択していた。
- 5) 記述コメント中の補助動詞は、回答者によって様々な表記があったが、ここでは原則として本文中と同様に「おく」「とく」「しまう」「ちゃう」を使用した。その他の部分は、記述コメントのまま表記した。
- 6) 記述コメント中の補助動詞の表記については、母語話者の場合と同様、原則として本文中と同様の「おく」「とく」「しまう」「ちゃう」とした。また、コメントの意図が理解しやすいように筆者が語句を補った部分は()で示した。
- 7) 事前調査の回答は以下のようであった。

表 7 事前調査回答 (N = 63)

場面	1 位	2 位	3 位
場面 1	頼む 29	頼んでおく 14	頼んどく 5
場面 2	やっつく 29	やっておく 23	やる 6
場面 3	帰っちゃう 47	帰る 13	お帰りになる 1
場面 4	やっちゃう 16	やる 32	片付ける 3

- 8) 「共存」という用語は水谷信子氏との談話の中で出てきたものである。
- 9) このコメントにある「全部」ということは、「しまう」の「完了」の意味から来ていると思われるため、やはり「開始限界」に注目するという視点はない。しかしそうであっても「希望を持たせる、励ましてくれる言葉」というコメントからは、相手の立場への寄り添いが感じられる。

引用文献

1. 池上嘉彦・守屋三千代編著 (2009)『自然な日本語を教えるために一認知言語学をふまえて』ひつじ書房.
2. 近藤安月子他「中国語母語日本語学習者の事態把握—日本語主専攻学習者を対象とする調査の結果から—」JCLA2010, pp. 690-706, 日本認知言語学会.
3. 近藤安月子・姫野伴子 (2012)『日本語文法の論点 43—「日本語らしさ」のナゾが氷解する』研究社.
4. 水谷信子 (1985)『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版.
5. 水谷信子 (1993)「『共話』から『対話』へ」『日本語学』12 巻 4 号, pp. 4-10, 明治書院.
6. 水谷信子 (2010)「補助動詞に見る立場志向表現—授受表現と「くる、いく」を中心に—」日本語教育世界大会 2010 予稿集, pp. 650-651.
7. 山本裕子 (2003)「『～テアゲル』の対人的な機能についての一考察」『世界の日本語教育』第 13 号, pp. 143-160, 国際交流基金.
8. 山本裕子 (2012)「話しことばにおける移動の補助動詞「～テイク」「～テクル」の使用傾向」AATJ Annual Conference.
9. 山本裕子・西川寛之・水谷信子・押尾和美 (2013)「『感じのよい表現』と補助動詞—日本語母語話者と非母語話者を比較して—」国際 OPI シンポジウム.

参考資料

厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況まとめ」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000036114.html>

法務省「平成 25 年における留学生の日本企業等への就職状況について」

<http://www.moj.go.jp/content/000125770.pdf>

日本語教科書

『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』スリーエーネットワーク.

『できる日本語 初中級』凡人社.

『にほんごで働く！ ビジネス日本語 30 時間』スリーエーネットワーク.

『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク.

『みんなの日本語 中級Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク.

会話コーパス

宇佐美まゆみ監修（2003 年度版）『BTS による他言語話し言葉コーパス-日本語会話 1（日本語母語話者
同士の会話）』

名大会話コーパス：日本語自然会話書き起こしコーパス

（2015 年 4 月 20 日 受理）